

修学院小 学校評価の結果と分析〈後期編〉

平成30年2月

修学院小学校長 浦杉 伸介

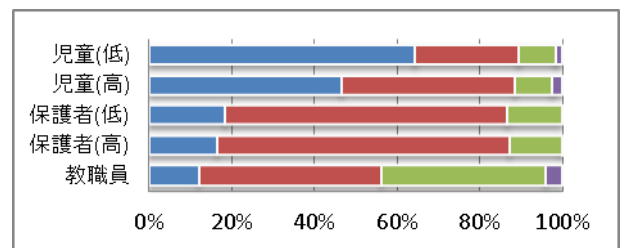
学校では、12月に実施しました学校評価に関わるアンケートにつきまして、児童・保護者・教職員に分けて集計し、その結果について分析を加え、次年度の教育活動に向けて検討してきました。また、今回のアンケート結果につきましては、学校運営協議会の「開かれた学校委員会」においても、委員の方々と吟味してきましたので、合わせてお知らせいたします。

確かな学力		
児童	保護者	教職員
学校の授業は、よく分かる。 (低) A:61.2 B:33.3 C:5.2 D:0.3 (高) A:49.0 B:45.1 C:4.6 D:1.2	子どもは、学校の学習がよく分かっている。 (低) A:23.0 B:63.6 C:12.7 D:0.7 (高) A:18.6 B:65.1 C:15.5 D:0.9	児童がよく分かるように、めあての掲示とめあて・振り返りを行っている。 A:8.7 B:91.3 C:0.0 D:0.0
自分の力を伸ばそうと努力している。 (低) A:64.4 B:25.2 C:8.7 D:1.6 (高) A:46.4 B:42.1 C:9.0 D:2.5	子どもが自分の力を伸ばせるよう、励ましている。 (低) A:18.4 B:68.4 C:13.3 D:0.0 (高) A:16.4 B:70.9 C:12.3 D:0.4	児童の学力向上のために、進んで校内や校外の研修に参加している。 A:12.0 B:44.4 C:40.0 D:4.0
自分で計画を立てて家庭学習(予習・復習・宿題)を行っている。 (低) A:52.5 B:29.7 C:13.6 D:4.2 (高) A:42.3 B:35.1 C:18.6 D:4.0	子どもに自分で計画を立てて家庭学習を行うよう、働きかけている。 (低) A:12.8 B:52.5 C:32.8 D:1.9 (高) A:11.8 B:53.3 C:32.2 D:2.7	児童が計画的に家庭学習を進められるよう指導している。 A:8.0 B:80.0 C:12.0 D:0.0
進んで読書をしている。 (低) A:57.2 B:23.0 C:16.6 D:3.3 (高) A:33.0 B:36.4 C:21.0 D:9.6	子どもに、家庭でも読書をするようにすすめている。 (低) A:17.5 B:34.1 C:40.1 D:8.3 (高) A:15.5 B:39.2 C:37.2 D:8.2	児童に、読書ノートの活用など読書活動の推進に向けて取り組んでいる。 A:8.3 B:62.5 C:29.2 D:0.0
人の話を、最後までしっかりと聞いている。 (低) A:56.6 B:34.8 C:6.8 D:1.6 (高) A:43.2 B:45.1 C:9.6 D:2.2	子どもに、人の話を最後まで聞くよう働きかけている。 (低) A:17.7 B:65.3 C:16.6 D:0.4 (高) A:20.2 B:65.5 C:13.2 D:1.1	児童に、話を聞くことの大切さや聞き方について具体的に示して指導している。 A:50.0 B:46.2 C:3.8 D:0.0
授業中、自分の考えを、進んで話している。 (低) A:47.4 B:32.5 C:16.2 D:3.9 (高) A:34.8 B:34.2 C:25.0 D:5.9	子どもに、授業中、自分の考えを進んで話せるよう励ましている。 (低) A:13.2 B:45.8 C:38.7 D:2.2 (高) A:12.5 B:47.8 C:38.3 D:1.3	児童に、自分の考えを話すことの大切さについて具体的に指導している。 A:34.6 B:65.4 C:0.0 D:0.0
家庭で、次の日の学習の準備をしている。 (低) A:74.8 B:15.9 C:7.4 D:1.9 (高) A:64.1 B:22.0 C:10.5 D:3.4	子どもに、次の日の学習の準備をするよう働きかけている。 (低) A:36.0 B:49.9 C:12.3 D:1.8 (高) A:25.3 B:55.5 C:16.9 D:2.2	児童に、学習の準備をする大切さを指導している。 A:28.0 B:64.0 C:8.0 D:0.0

～確かな学力について～

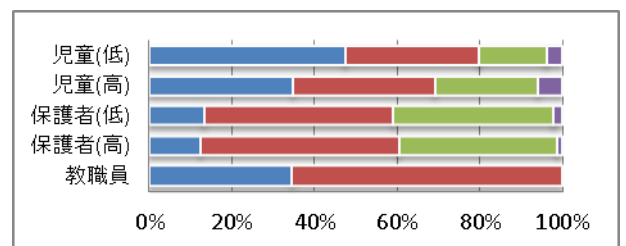
自分の力を伸ばそうと努力すること

前期と同様に、低・高学年とも90%近くの児童がプラス評価としています。「児童がめあてに向けて主体的に学び、友達と共に学び合い、高め合う授業の創造」を目指し、指導を進めてきた我々にとっては嬉しい結果です。一方で、低学年の保護者についてはCの割合が微増しています。これは、家庭学習の意義について十分に伝えきれていないということも一因としてあげられると考えます。家庭においても子どもたちが主体的に学習が進められるよう、今一度、家庭学習の内容についても学年内で共通理解を図りながら精選を図り、その意義についても改めて発信していきたいと思います。



授業中、自分の考えを進んで話せること

前期と同様に、低学年で約80%、高学年で約70%の児童がプラス評価としています。これは、自分の考えを話すことの大切さや、ハンドサインや話形を活用した話し方について指導を積み重ねてきた成果の一つであると考えます。しかし、他の項目と比べるとC・Dとする児童の割合が高く、また保護者の40%近くの方がマイナス評価とされています。前期に比べて学習内容の難易度が上がってきているため、自信を持って発表することが難しくなっているのかもしれませんが、今後も、間違っても安心して発表できる環境作り、何でも話し合える学級づくりに努めていきたいと思います。

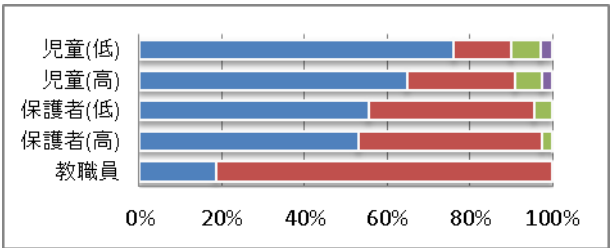


豊かな心		
児童	保護者	教職員
学校が楽しい。 (低) A:76.1 B:13.9 C:7.1 D:2.9 (高) A:64.7 B:26.2 C:6.5 D:2.5	子どもは、楽しく学校に通っている。 (低) A:55.5 B:40.0 C:4.5 D:0.0 (高) A:53.0 B:44.4 C:2.2 D:0.3	全ての児童が、学校で楽しく過ごせるよう居場所づくりをしている。 A:18.5 B:81.5 C:0.0 D:0.0
進んであいさつをしている。	子どもが、友達や地域の人に進んで挨拶できるよう、家庭でも挨拶している。 (低) A:71.2 B:20.4 C:6.5 D:1.9 (高) A:55.4 B:34.7 C:9.3 D:0.6	自ら児童に働きかけ、進んで挨拶できるように、教職員自ら挨拶をしている。 A:67.9 B:32.1 C:0.0 D:0.0
ていねいな言葉づかいをしている。	子どもが、丁寧な言葉遣いができるよう、家庭でも意識して話している。 (低) A:57.4 B:32.3 C:8.1 D:2.3 (高) A:33.5 B:49.1 C:15.4 D:1.8	児童の手本となるような正しく丁寧な言葉遣いや態度をしている。 A:14.3 B:67.9 C:17.9 D:0.0
人を大切にしている。	子どもに、人を大切にする気持ちが育つよう、家庭でも互いを思いやるようにしている。 (低) A:78.3 B:15.2 C:5.8 D:0.6 (高) A:63.8 B:33.8 C:1.6 D:0.9	児童に、人を大切にするとはどういうことか場面に応じて具体的に示し、自らも一人の人間として大切にしている。 A:48.1 B:51.9 C:0.0 D:0.0
友だちと仲良くしている。	子どもに、友達と仲良くするよう働きかけている。 (低) A:83.1 B:13.6 C:2.6 D:0.7 (高) A:76.1 B:20.5 C:2.4 D:1.0	児童が仲良く過ごせるよう学級経営や指導を工夫している。 A:32.0 B:64.0 C:4.0 D:0.0
友だちのがんばりをみとめ、はげまし、助け合っている。	子どもに、友達のがんばりを認め、励まし、助け合えるよう励ましている。 (低) A:68.3 B:24.9 C:5.9 D:1.0 (高) A:51.8 B:40.2 C:6.2 D:1.9	児童が互いに認め、励まし、助け合えるよう学級経営や指導を工夫している。 A:41.7 B:58.3 C:0.0 D:0.0
学校やクラスのルール、約束事の大切さを理解し、守っている。	子どもに、社会や学校、クラスのルール・約束事を守るよう働きかけている。 (低) A:63.5 B:29.6 C:6.2 D:0.6 (高) A:47.2 B:43.9 C:7.7 D:1.2	児童に、学校やクラスのルール・約束事の大切さについて指導し、守れるように常に働きかけている。 A:44.0 B:52.0 C:4.0 D:0.0
学校であったことを、家庭で話している。	子どもが、学校であったことを家庭で話せる雰囲気づくりを大切にしている。 (低) A:60.2 B:20.1 C:11.0 D:8.7 (高) A:53.4 B:24.4 C:16.0 D:6.2	児童に寄り添い、困ったことがあれば、何でも相談できる関係をつくっている。 A:16.0 B:80.0 C:4.0 D:0.0

～豊かな心について～

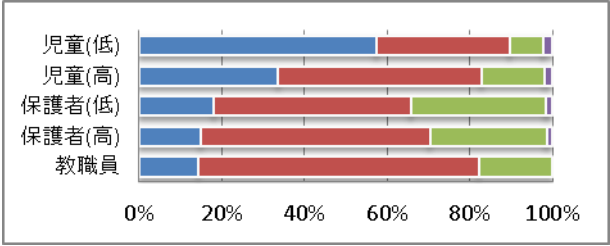
学校が楽しいこと

三者ともに前期と同じ傾向です。多くの子どもたちは、友達と良好な関係を保てることで「学校が楽しい。」と感じることができているのではないのでしょうか。ただ、不用意な発言で相手を傷つけてしまうような事象がないわけではなく、C・Dと回答している児童が10%近くいるのはこのようなことが原因の一つと考えます。この事実をしっかりと受け止め、本校の教育目標にある「正しく」（互いの違いを認めてその良さを伸ばすこと。望ましい人間関係を築き、集団の一員として協力する態度を育むこと。子どもたちが生き生きと学び、子ども同士の豊かな関係を築くこと。）の具現化に向け、今後も、学校という集団生活のあらゆる場面を通して、子どもたちの支援にあたっていきたいと思います。



ていねいな言葉づかいをすること

低学年の約90%、高学年の約80%の児童が前期同様、丁寧な言葉遣いをしていると回答しています。保護者の方も前期大きな変化は見られません。(約70%がプラス評価)しかし、教職員はAが約10ポイント減り、マイナス評価が僅かですが増えています。この結果から、子どもたちとの関係が深まる中で、日々の言動への意識が薄れていたということに、気づくことができました。再度全教職員で意識して取り組んでいきたいと思います。子どもの人権意識は、学習を通して身に付く以上に、日々の生活の中で培われま



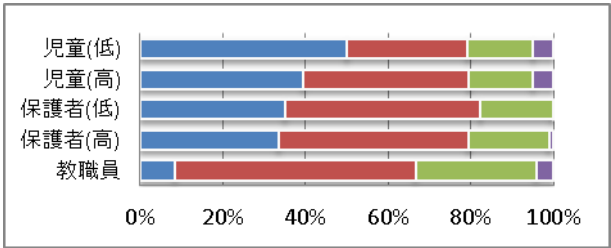
す。何気ない会話や態度が知らず知らずのうちに子どもに刷り込まれていくということもあります。私たち大人は、そのことを十分認識して子どもたちと接することを大切にしていきたいと思います。

健やかな体			
児童	保護者	教職員	
早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣が身についている。 (低) A:50.0 B:29.2 C:15.9 D:4.9 (高) A:39.5 B:40.1 C:15.4 D:5.0	子どもに、早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣が身につくよう、家庭で取り組んでいる。 (低) A:35.0 B:47.3 C:17.3 D:0.4 (高) A:33.5 B:45.9 C:19.5 D:1.1	児童に、早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣が身につくよう、家庭と連携し働きかけている。 A:8.3 B:58.3 C:29.2 D:4.2	
遊びなどを通して、よく体を動かしている。 (低) A:75.7 B:13.9 C:8.5 D:1.9 (高) A:63.3 B:21.0 C:12.3 D:3.5	子どもに、遊びなどを通してよく体を動かすよう働きかけている。 (低) A:32.4 B:47.8 C:19.8 D:0.0 (高) A:28.2 B:49.5 C:21.2 D:1.1	児童に、遊びなどを通して体を動かすよう働きかけている。 A:28.0 B:64.0 C:8.0 D:0.0	
好き嫌いなく、給食を食べている。 (低) A:60.9 B:24.4 C:8.8 D:5.9 (高) A:51.7 B:30.4 C:14.5 D:3.4	子どもに、好き嫌いなく食べるよう働きかけている。 (低) A:40.6 B:48.6 C:10.5 D:0.4 (高) A:37.4 B:51.9 C:10.4 D:0.4	児童に、給食を好き嫌いなく食べるよう指導している。 A:32.0 B:60.0 C:8.0 D:0.0	
自分のことは、自分でしている。 (低) A:64.5 B:27.4 C:7.5 D:0.7 (高) A:58.6 B:37.0 C:3.4 D:0.9	子どもに、自分のことは自分でできるよう教えたり、見守ったりしている。 (低) A:34.5 B:58.6 C:6.8 D:0.0 (高) A:30.0 B:61.5 C:7.7 D:0.7	児童に、生きる力を育てることを目指し、自分のことは自分でできるよう指導している。 A:23.1 B:76.9 C:0.0 D:0.0	
登下校時や帰宅後も、安全に気をつけている。 (低) A:81.5 B:14.9 C:1.9 D:1.6 (高) A:72.7 B:21.3 C:4.1 D:1.9	子どもが、登下校時や帰宅後も安全に気をつけているか見守ったり、声をかけたりしている。 (低) A:40.8 B:51.3 C:7.2 D:0.7 (高) A:32.8 B:56.2 C:9.5 D:1.5	児童に、登下校時や帰宅後も安全に気をつけるなど、安全指導を行っている。 A:36.0 B:64.0 C:0.0 D:0.0	

～健やかな体～

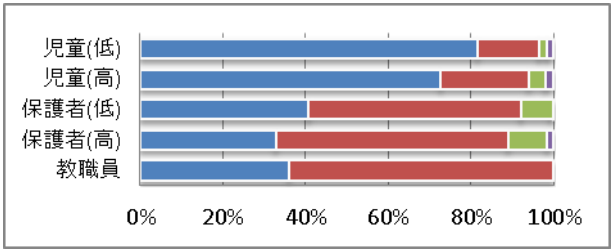
早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣を身につけること

学校では、長期休業後に生活点検を行い、子どもたちの実態を把握するとともに、よりよい生活習慣が身につけられるよう、働きかけています。しかし、おもに高学年で「遅寝・遅起き」の傾向が強いのは、毎年の課題です。また、低学年では前期よりAの割合の減少とともに、保護者のCの割合が増加傾向にあるのが気になるところです。今後も、継続的に「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを伝え、改善していきたいと思います。ご協力、よろしくお願いします。



登下校時や帰宅後も安全に気をつけること

子ども見守り隊の方々や保護者の皆様の見守り活動が子どもたちにとって大きな支えとなっています。ありがとうございます。おかげさまで、前期同様、プラス評価が児童・保護者ともに90%を超えています。ありがとうございます。学校でも、「安心して安全な教育環境を保障するとともに、自ら考え、安全に行動できる子どもを育む。」を重点目標として様々な取組を進めています。しかし、廊下を走ってしまうことがなかなか減らなかったり、自転車の乗り方についてご指摘を受けたり、といった実態があるのも事実です。引き続き、より実践的な態度を培っていただけるよう取組を進めていきます。保護者の皆様をはじめ地域のご理解とご協力を、今後ともよろしくお願いします。



＜各学年より＞

ひまわり学級

ひまわり学級は、学校が楽しいや、授業が良くわかるの項目では、概ねA評価でした。学校に楽しく通っている、の項目も概ねA評価だったので、担任としても嬉しく思います。また、各項目より、個に応じた支援が必要だということを改めて感じています。次年度に向けて、引き続き取組を進めていきたいと思います。

1年生

1年生は、前期のアンケートで授業の理解度について数名D評価にしている児童がいたため、特に国語科・算数科で、学習のめあてを明確にし、「この時間は何について学ぶのか」が児童に分かるように授業をしたり、放課後の学習を行ったりしてきました。後期は、D評価は減少したもののC評価が増加しています。学習内容が難しくなってきたこともあると考えられますが、2年生に向けて、引き続き、取組を進めていきたいと思います。

2 年生

当初2年生では、積極的な挨拶ができていない姿がありました。そこで、学年目標に「元気な挨拶」を取り上げて、音読カードで振り返りをする取り組みを行いました。アンケートでは、良い結果を得られませんでした。自分から挨拶をする児童が増えたように思います。大切なことなので、これからも引き続き取り組んでいきたいと思っています。

3 年生

3年生は、発達の過程のひとつとして、低学年の時ほど家庭で学校の話をしなくなったということがよく聞かれています。そのため、児童と保護者の回答に開きが見られる項目もいくつかありました。学級だよりなどでクラスの様子や、取り組んだ学習について積極的にお知らせし、家庭での話題にあげられるよう働きかけていきたいと思います。また、前期より「自分のことを自分でしている」という児童が増え、宿泊行事もある4年生に向けて、引き続き、自分で考え行動できるよう声かけをしていきたいと思います。

4 年生

「自分の力を伸ばそうと努力している」…CDが少し減った。(9%→5%)これまで「自分でかしくなろう。」と書いていなかった児童の中に若干名ですが「自分でかしくなろう。」という意識できた児童が出てきたようです。「自分で計画を立てて家庭学習(予習・復習・宿題)を行っている」…A+Bの比率は変わっていませんが、Aが増えており(42%→58%),学習に対する意識が高くなってきているようです。一方、CDの児童(18%→18%)の児童に対する一人一人に応じた指導をしていかなければならないことも明らかになりました。

高学年になったとき、自分を振り返り、よりよく学校生活を送ろうとするためにどうしていったらよいかを自分で考えて行動できる子どもになってほしい。そのために、4年生では「自分で決める」力を培うために「自主勉強ノート学習」に取り組んでいます。

5 年生

5年生は、ほぼ全ての項目で、前期と比べて後期の値が変わらない・または下がってしまうという残念な結果になりました。しかし、変わっていない場合でも、細かく見ると、各担任がそれぞれ学級で課題とする項目についての指導を続けたことで、その項目の値については上がっていました。素直で真面目で、しっかり伝えたことはきちんと伝わる児童たちなので、今一度、一つ一つの項目を、それぞれの学級で日々大事にして取り組んでいきたいです。

6年生

6年生は「学校の授業がよく分かる」「学校が楽しい」「人を大切にしている」「友だちと仲よくしている」などの項目で90%以上のAB回答が出ている点からも、学校生活を楽しく過ごせている様子が見て取れます。高学年になり、習い事など時間的に忙しいこともあってか、読書の習慣や、生活習慣のCD回答率が前期から後期で改善といかず逆に上がってしまい、中学校に向けて、改善に向けた働きかけが必要だといえます。



学校長より

子ども・保護者・教職員のそれぞれの立場で、自己を振り返り、今後の改善につなげていくことが、アンケートを取らせていただく最大の目標です。学校といたしましては、上記に挙げましたように、学年で結果を分析し、日常の取組について見直すとともに、重点を置いて進める内容を決めて、より効果的な方策に繋げていかなければならないと考えます。子どもたちの日頃の様子をしっかりと観察するとともに、保護者の願いやご意見を今後も拝聴しながら、粘り強く教育活動を進めていきます。

開かれた学校委員会より

◇ … 委員さんからのご意見 → … 学校より

◇ 限られた時間の中で、子どもたちのためにすべきことがたくさんあり、大変だと思います。そのような中でも、先日の研究発表会で参観させていただいたひまわり学級の授業のように、一人一人に応じた指導をされていることには大変感心しました。

◇ 放課後まなび教室での学習の様子を見ていると、同じ宿題をするのでも、学級によって子どもたちの取り組む姿勢が違ふなど感じます。家庭学習の意義をしっかりと子どもたちに伝えていくことが大切ですね。

→ 同学年でも学級によって宿題の内容が異なることがありますが、やはり宿題についても学年の中でその意義やねらい、内容等についても共通理解を図り、一貫した指導を行っていく必要があります。今後の課題として取り組んでいきたいと思います。

◇「…進んで校内や校外の研修に参加している。」(教職員)のCの割合が多いように感じるが、実態はどのような状況なのでしょう。

→ 採用1年目の教員については年間を通じて悉皆研修が計画されており、勤務時間内に行われています。しかし、教科の指導に関する研修など任意参加のものについては夜間に行われるため、常勤講師等については翌日の授業の準備等を優先することもあり、なかなか参加できないというのが現状です。そのため、指導力の向上のためには学年内での協力が不可欠です。今後も、学年の子どもたちは学年の担任全員で、そして、全教職員で全ての子どもたちをという意識をもって指導に当たっていきたいと思います。

◇ 教職員の皆さんのC・D評価が、多くの項目で0%となっていますね。大変心強いです。

→ 教職員の自己評価は、前期に比べて大幅に改善されています。創意工夫を凝らしながら、学習面・生活面共に様々な指導を重ねてくる中で、その成果が子どもたちのよりよい姿となって表れてきていることを、教職員自身が感じ取ることができているのではないのでしょうか。とても嬉しいことです。今後も学校目標の具現化に向けて取り組んでいきたいと思います。

◇ 「授業中、自分の考えを、進んで話している。」の項目を見ると、高学年ではマイナス評価が増加していますね。先日の参観でも我が子は一度も手を挙げませんでした。学校ではどのような手立てを行っていられますか。

→ 高学年にもなると、とくに女子は思春期に入る年頃ということもあり、なかなか手を挙げなくなってくるというのが現状です。各学級では「教室はまちがうところだ」という詩を紹介したり、全員発言をめあてに日々取り組んだり、様々な工夫をしています。何より大切なのは、どんな意見も認め合える、尊重し合える雰囲気作りだと考えます。教職員はもとより、子どもたち同士も一人一人を大切にできる学級づくりをさらに進めていきたいと思います。

◇ 6年生の分析に「中学校に向けて…」とありますが、6年生の子どもたちは、中学校生活にどのようなイメージを持っているのでしょうか。

→ 中1ギャップという言葉もあるように、スムーズに中学校生活に移行できるよう、この時期に6年生の子どもたちがイメージできていることは大切です。修学院中学校区では、夏季に全5校の教職員が集まって研修を行い、各校の取組を交流したり課題について共通理解を図ったりしています。また、6年生が中学校生活に具体的なイメージが持てるよう、中学校を訪問し、授業や部活動の体験を行っています。

